

(第1回) 大阪 SDGs 学生・若者ワークショップ 開催結果 概要

日 時 : 2020年8月7日(金曜日) 10:00から12:15まで

実施方法 : オンラインのテレビ会議システム (Cisco Webex Meeting)

対 象 者 : SDGsに関心がある30歳以下の学生・若者で(1)又は(2)にあてはまる方

(1) 大阪在住者

(2) 大阪に通勤・通学をされている方

参 加 者 : 20名

議 題 : セッション(1)コロナとの共存社会に向けたSDGs

セッション(2)SDGsを自分事化し行動につなげるために

そ の 他 : 4班に分かれて議題ごとにグループセッション(1班:5名程度)

◆コロナとの共存社会に向けたSDGs

(グループセッションでは参加者からのアンケートをもとに4つのテーマを設定)

○今回のコロナによってどう変化したか、何が課題となっているか、改めて大事だと思うこと等

*テーマ【教育】

- ・現在、感染対策として間隔を空けて席について対面授業を受けているが、授業の質が変化したとは感じない。
- ・オンライン授業が進む中、Zoomを利用したオンライン授業、課題だけの授業など教授や教師のコロナ禍での実施する授業方法に差があり、教授の対応力によって、授業の質が悪くなることもある。
- ・9月から海外留学予定だが、コロナによって留学(海外に移動)できない場合、オンライン授業になってしまう。海外留学にも関わらず、対面授業を受けられない可能性があり、学校側の対応力や判断が学生にとって大きく関わる。
- ・オンライン授業と対面授業の違いの1つとして、オンライン授業だと学生が授業に集中できない、授実がないなど、学生のモチベーションが変化する。
- ・オンライン授業を受けるうえで、オンラインのデバイスが充実している人とそうでない人など、一人一人で学習環境に違いがあるので、オンラインはシステム、デバイスの面での懸念があり、教育格差が生じる。
- ・オンライン授業の導入によって、生活リズムが変化した。
- ・オンライン授業や家庭学習が多くなったことにより、学生の自主性、自立性が浮き彫りになってきている。
- ・私立学校と公立学校の差についても検討が必要と思う。
- ・ESD (Education for Sustainable Development) の導入が日本は遅れていると思う。

*テーマ【健康】

- ・マスクの買い占めにより、不足が起きた。その結果、医療・介護など真に必要な人に行きわたらない事態が生じた。
- ・こうした国内での格差に加え、世界の中での格差の拡大も顕著になっている印象を受ける。
- ・物資の格差だけでなく、感染者の人数、正しい医療知識などについて、なかなか知ることができず、情報の格差についても今回のコロナ禍では感じられた。

- ・SNS を使った情報共有が今の若い世代では広がっているが、上の世代ではあまり用いられておらず、世代間の情報ギャップが起こっていることも課題ではないか。

* テーマ【人とのコミュニケーション】

- ・人と直接会う機会が減り、オンラインでのコミュニケーションの機会が増えた。
- ・オンラインで話す場合、よく知っている友人などとはいつもどおり会話ができるが、初めて会う人は距離が詰めにくいと感じる。
- ・大学では、授業の受け方として、①大学側から動画が配信される、②レジュメやレポート等の資料のやり取り、③webでの講義、の3つのパターンがあるが、授業を行う先生によって授業の内容や質にばらつきがあると感じる。
- ・サークル活動で人が集まる機会が減ったため、新しい人と出会う機会が減った。人との出会いの機会を得るにはより能動的にならなければいけない。
- ・アルバイト先では、マスクをしているのもあって、コミュニケーションが取りづらく、接客が難しくなったと感じた。
- ・仕事上においては、オンラインでは気軽に打ち合わせや商談に応じてもらえる一方、些細なことで訪問することができなくなり、訪問へのハードルが上がったと思う。
- ・就職活動にも変化がでてきており、オンラインでの説明会などが増えた。メリットとしては、遠方で開催される説明会にも参加できる。デメリットとしては、リアルで行う説明会や面接などは参加できる人が少なくハードルが上がっており、コロナの影響で採用人数も減ると予想されるので、希望する分野を幅広くしないといけないと思う。
- ・デジタルへの適応力は、若者の方が高いと思うので、オンラインでのコミュニケーションも、初めての時は戸惑うこともあったが、慣れてくれば普通に使うことができている。SNS などを使うデジタルネイティブだからこそ、webでのコミュニケーションにもすぐ対応することができた。
- ・大学では、人によってパソコンを持っていない子もいるので、オンラインで授業を受ける環境に差が出ていると思う。

* テーマ【ジェンダー】

- ・テレワークにより、通勤時間を家事や育児のために使えるようになったと思う。
- ・男女ともに自宅でテレワークをしても、女性の家事負担だけが増えたという声もある。
- ・テレワークができない職種（飲食や小売、旅行業等）に就いているのは女性の方が多く感じる。このため、リストラ等、コロナ渦の影響で職を失うリスクは女性のほうが高いのではと懸念している。
- ・外出自粛や海外との交流がなくなったことで、性的マイノリティの孤立感が増していると感じた。

○対策、SDGs との関わり等

* テーマ【教育】

- ・オンラインと対面授業を使い分けることで、今まで学べなかった教育を学べる、補講授業の充実などにより、教育の質が向上する可能性があると思う。
- ・オンラインによる教育格差をなくすためには、今後、学生が自立して学べる環境整備が必要ではないかと思う。
- ・ふりかえり（復習）や、重点（興味のある）分野の勉学などを学べるシステムを政府が作っていく必要があり、学習の場を提供することで教育格差の是正につながるかもしれない。
- ・教育機関に、留学生の準備が無駄にならないような具体的な対応・対策を期待したい。

* テーマ【健康】

- 物資・情報の格差については、SDGs の「誰一人取り残さない」という考え方のもと、セーフティネットからの抜け漏れた人たちがいないかを考えることが重要ではないか。
- 限られた資源を真に必要な医療現場に供給することが、医療の「持続可能性」につながっていくと考えられる。買い占めによる物資の不足を起ささないため、情報に振り回されないように気を付けることが必要。
- 行政からの情報発信を充実させるとともに、得られた情報については、若い世代から上の世代へと情報のシェアをしていきたい。
- 抜本的な格差解消は難しいが、一人ひとりが今回の事態のステークホルダーであると自覚し、自分たちの生活を一つ一つ変えていくこと、意識を変えていくことが大切。

* テーマ【人とのコミュニケーション】

- コロナの影響で、コミュニケーションが広く浅くなったと感じる。
- 今後の課題としては、もともと知っている人と初対面の人では、コミュニケーションの取り方や距離の詰め方が違ってくるので、そこをどう解決していくか。

* テーマ【ジェンダー】

- 女性への差別・不利益解消に向け、女性が不利な立場におかれていることの「見える化」を行うべきではないか。
- 性別による格差をなくすためには、女性の正規雇用率のアップをめざすべきだと思う。
- テレワークが難しい職種（対面販売や接客など）は女性比率が多い印象。職種における男女比率の均等化を試みたり、デジタル化を推進することが解決につながるのではと考える。
- 男性も家事や育児に参加したい気持ちはあるが、残業が多いのではないか。
- 男性は仕事優先という意識が職場で強く、女性に負担を押し付ける結果に繋がっている側面もある。
- 女性の働き方の見直しと男性の働き方の見直しはセットで行わないと上手くいかないと思う。

◆SDGs を自分事化し行動につなげるために

○自分事化するには

- SDGs は途上国だけの問題と思われがち。コロナ禍はもちろん、日常の些細な問題、困りごとにも SDGs が密接にかかわっている。難しい言葉を使いすぎず、簡潔で分かりやすく伝えるのが良い。
- SDGs をより簡単に落とし込む、身近に落とし込む形を考えていくことが大事。
- SDGs を自分事化するには、前のプロセスが大事。自分に纏わる問題意識を持つこと。
- SDGs の思想ではなくて、自分が社会問題を解決する行動を起こすことが大事。
- SDGs という言葉でなくて、「海を見てゴミが多い」と感じることで行動喚起になる。
- 問題解決した経験や原体験（ゴミ拾いに参加など）や教育による学びが大事。
- 子供の発想力はすごいので、身近な行動でどうことができるか例示をあげながら、自分たちでも考えてもらうことが大事。
- SDGs はスケールが大きいのがゆえに、具体的な個人の目標を打ち出すことが大事。
- 自分事化するときに自分自身が 2030 年の目標をもつことが大事。そのためにまずは社会などに問題意識をもつ必要がある。

- ・日々行っている行動（食ロス、マイバック・マイボトル運動、電気を消すなど）が SDGs につながる行動と気が付いていない人が多い。
- ・SDGs 活動の見える化を行い、SDGs を意識していない人に、SDGs の概念や意義を広めていくことが必要。
- ・日常生活の中で何か選択を行う際に SDGs の観点から自然と行動できるようになれば自分事化できたといえる。
- ・日々の買い物の商品に SDGs のロゴ、17 のマークがあるとよい。

○広く知ってもらうために

- ・第1歩として、理解促進活動をより積極的に行うべき。SDGs を知らない人はまだまだ多い。
- ・SDGs が日常生活の中でだれでもできることだと示すことが必要。
- ・横文字、アルファベットというだけで難しいと思う人もいる。
- ・SDGs は若者世代には比較的認知されているが、特に高齢者層の認知度は低い。
- ・若い世代・学生が主体になって周囲や上の世代に発信していく必要性。
- ・家庭で孫世代から親世代、祖父母世代へ SDGs を広めていく縦の情報伝達。
- ・Instagram や Twitter などの SNS での発信や電車での広告掲載など、目に触れる機会を増やす。
- ・YouTuber が農林水産省とコラボして地域資源の発信をしていたりするので、大阪の場合は吉本興業とコラボして YouTube で SDGs を発信するのはどうか。
- ・インターネットを使わない世代への普及啓発として、テレビでの発信や高齢者がよく使う施設へのポスター掲示を行うなど地域の呼びかけを行う。
- ・府がプラットフォームを作ってつながりをつくる。

○大阪らしさ、大阪ならではの

- ・大阪人の特徴はユニーク、面白い、人との距離が近い、コミュニケーション能力が高い、にぎやかで明るい人柄、節約家、多様性、柔軟性がある。
- ・思ったことを遠慮せずに伝えることができるのが大阪の特徴。
- ・商店街でのコミュニケーションが強み。世界の海の向こうというより、まずは身近な人から。
- ・大阪人の特徴をいかし、17 番を強調し、みんなで協力しようと呼びかける。
- ・街の特性は、国内外から人材が集まる、高層ビルが多い。
- ・高層ビルの屋上で都市農業を行うなど都市ならではの SDGs を広めていく。
- ・たこやきやお好み焼きが名物なので、使用している食材に注目して SDGs を発信する。
- ・固いと思われないう、「面白い」ものとして伝える。
- ・通天閣など、大阪に纏わるワードをいれる。
- ・行動憲章を大阪弁にする。大阪の人にはなじむし、関西以外の人にも注目される。

(以上)